

症例2 琉球大学病院 への質疑応答

Q「肝細胞癌と解答された方へ決めてとなったポイントを教えてください」

※ 本例は腺癌と肝細胞癌で回答者の意見が二分された症例でした。肝細胞癌と回答された方から診断のポイントとなった点についてご意見をお寄せいただきました。

A

コメント ①

肝細胞癌と低分化腺癌との区別は難しいと思いますが、本症例での細胞は平面的に出現し、腺癌みtainな細胞の融合性が少ないように思われます。細胞質がやや厚く、肝細胞の特徴でもある細胞間の境界(細胞間橋)のような配列が散見されます。それと、細胞は多稜形でしかも核中心性が多く、細胞質は顆粒状で、やや褐色が掛かっています。いかにも胆汁色素の沈着を彷彿させるかのような所見も見受けられます。そして、一部に核内細胞質封入体のような物も認められます。

あと、発生部位等から考えますとやはり肝細胞癌と判断したいです。

コメント ②

本例では多辺形細胞が平面的に出現、結合性が保たれています。細胞質はやや厚い印象で、粘液はあきらかではなく所々に淡黄色調にみえたり、一部では細胞質に空胞がみられ脂肪変性の可能性もあります。一方で核の突出、偏在、重積はめだたず、腺管構造はあきらかではありません。以上よりいわゆる腺癌としては典型的ではなく、胆汁であり(そして定例会症例なので!)肝細胞癌の可能性を考えました。